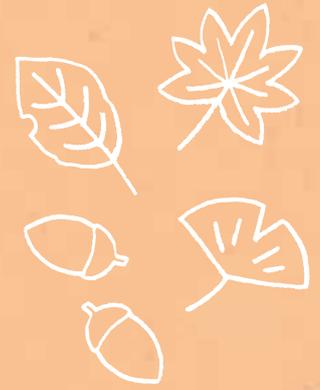


公益社団法人岐阜病院 広報誌

まごころ

『まごころ』は、公益社団法人岐阜病院の広報誌です。



第 **22** 号

持効性注射剤（デポ剤）について



持効性注射剤（デポ剤）とは注射剤の一種で、体内に投与後、作用が長期間（数日～数か月、お薬の種類によって異なります）持続するようにした薬剤で、**毎日内服する手間がなくなる**ため、糖尿病、前立腺疾患、骨そしょう症といった病気の治療に用いられています。精神科領域でも、抗精神病薬の持効性注射剤が現在5種類使用することができます。

そのうち、2009年以降に発売された3種類（リスパダールコンスタ、ゼプリオン、エビリファイLAI）は副作用も少なく、使用される方が増えてきています。これらのお薬は2週間～1ヶ月おきに注射をするお薬です。

持効性注射剤の利点

●症状が安定する可能性が高くなる。

体内のお薬の量は多すぎてもいけませんし、少なすぎてもいけません。適正な量・濃度でお薬が効いている必要があります。一般に飲み薬の場合、お薬を飲むと、腸で吸収され体内のお薬が増えていき、一定時間で最大になり、それから、次に飲む時まで減っていきます。体内のお薬が増えるときに効果と副作用が出やすく、減っていくときに効果がなくなり離脱症状が出やすくなります。薬の増減が激しいほど、副作用や離脱症状が出やすくなりますが、持効性注射剤は口から飲むお薬に比べ、体の中の薬の量の増減が少なく安定した濃度で維持されるため、症状の安定につながると考えられています。飲み薬を持効性注射剤に変更した結果、入院回数が減ったという多数の研究もあります。

●飲み忘れ、飲み間違いが防止できる。

ある研究では医師の処方通りに服薬を継続で来ていた方は4割程度であったという報告があります（精神科だけの話ではありません）。その多くは飲み忘れによるものでした。どんな方でも、忙しいとき、遊びに行ったときなど、様々な理由で飲み忘れは起こり得ます。飲み忘れて、間違って飲みすぎることもあるかもしれません。このようなことが起こると、先ほど述べたような薬の増減が激しくなり、症状が不安定になります。持効性注射剤はこのような飲み忘れを防止します。

●「お薬を飲むこと」を気にして生活せずに済む。

お薬を飲むことを気にしつつ、生活することは意外に大変です。家族から「クスリを飲んだの」と何度も確認されなくなり、家族とより有意義な会話に割けるようになったとか、仕事中に周りを気にしてお薬を飲む煩わしさがなくなり、仕事に集中できるようになったというご意見は多く聞かれます。

持効性注射剤の短所

●注射による痛みがある。

持効性注射剤は、注射による痛みを伴います。けれども2009年以降に発売された薬剤はそれぞれ工夫を凝らし痛みをできるだけ少なくするように開発されています。

●体内に入るとお薬が排出されるのに時間がかかる。

持効性注射剤は、長期間お薬が体の中にとどまれるように作られたお薬です。これは利点であると同時に、いったん入ると体から出せないということでもあります。ですから、飲み薬も飲んだことがない方がいきなり持効性注射剤を使用するのはお勧めできません。必ず、飲み薬で副作用が生じないことを確認の上、使用する必要があります。特にもともと、お体の重い病気を抱えている方や超高齢者などでは使用を慎重にする必要があります。

●効果が出るまでに時間がかかる。

持効性注射剤は、効果が出るまでに時間がかかります。そのため、最初は飲み薬を飲み、病状が安定したときに導入することが一般的です。

持効性注射剤に興味がある方がございましたら、主治医に導入が可能かどうか相談ください。

当院の給食事情について



当院では現在、直営で患者様に給食を提供しております。調理従業員採用については、どの医療機関、施設等でも困難となり、委託に踏み切るところが多くあるとお聞きします。また、委託会社においても従業員を確保することが困難であるのが現状のようです。この傾向は調理の現場に限らず、いろいろな職種に及んでいるようです。この先、日本の働く世代が確実に減少していくこととなります。そんな中でも当病院は、調理方法の見直し、職員の待遇、職場環境、福利厚生充実を図り、直営を維持しながら日々、工夫、奮闘しているところです。

当院は直営のメリットを活かし、患者様に好評なお刺身を年に複数回提供、元旦のおせち料理、ひな祭り、端午の節句、七夕、土用の丑のうなぎ、ハロウィン、クリスマス等、季節や行事を料理に反映させています。また、週に2回の選択食も実施し、今後も日々患者様に喜んでいただけるバラエティーに富んだ給食提供のため、努力を重ねてまいります。

当院の1日当たりの給食提供数は、平均すると入院患者様に1回430食を3回、また昼食に限り、デイケア通所者様に75食、保育所幼児用に10食、職員食堂に60食の提供をしております。したがって、1日当たり、1,435食の給食を提供していることとなります。

7月7日の七夕で提供した給食他、おせち料理の一部を掲載させていただきます。



行事食 七夕(並食)



おせち料理(並食)



おせち料理(粥食)



おせち料理(きざみ食)



部署紹介（外来）

精神科外来の看護の役割は、ノーマライゼーションを推進し医療の継続はもとより地域での生活を継続するために「その人らしく」生きていく力を強化し支える事であると思います。そのためには、院内外の様々な機関・職種と連携して社会資源を活用しながら患者様やご家族を支援していく事を日々重点的に取り組んでいます。

また、外来看護は病院全体の看護のモデルである事を念頭に置き、常に患者様目線での対応を心掛け、地域から見やすいそして親しみやすい外来環境を整備していきたいと思ひます。



名鉄岐阜駅からお越しの場合

岐阜バスターミナル Dのりば乗車

大洞団地線・岐阜関線 19分「日野橋」下車 徒歩10分
 日野市橋線（日野西行） 21分「日野舟伏」下車 徒歩5分

JR岐阜駅からお越しの場合

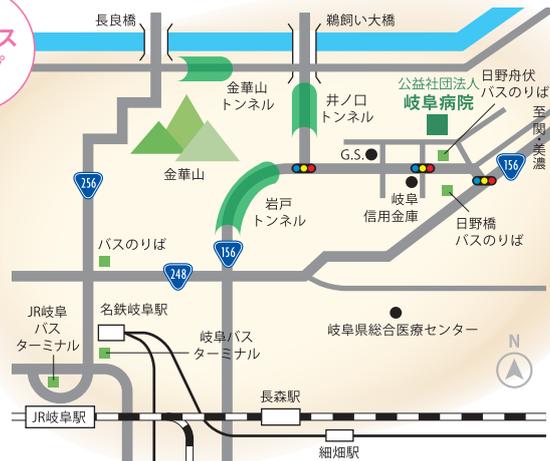
JR岐阜駅 14番のりば乗車

大洞団地線・岐阜関線 17分「日野橋」下車 徒歩10分
 日野市橋線（日野西行） 19分「日野舟伏」下車 徒歩5分

外来担当表

	月	火	水	木	金
一 診	淡路	石井	安楽	淡路	安楽
二 診	宮崎	勝	吉田	深尾(希)	勝
三 診	初診	初診	初診	初診	初診
四 診	渡邊	吉田	南谷	南谷	柳澤
五 診	平野	平野	渡邊	山本	伊藤
六 診	石田	鈴木	柳澤	木田	山田
午後療 (再診のみ) 13:00~15:00	宮崎・利重	須磨			柳澤・堀部

アクセス マップ



公益社団法人 岐阜病院 広報誌まごころ

平成29年9月20日発行
 〒500-8211
 岐阜県岐阜市日野東3丁目13番6号
 ☎058-245-8171
 ☎058-246-6824
<http://www.shadan-gifu.or.jp>

初診の予約が可能になりました。
 お電話でお問い合わせください。

編集 後記

虫の音が美しい季節となりました。秋は食欲も増してきます。美味しい食べ物の誘惑に負けてしまいますね。栄養科の記事はいかがでしたか？あれもこれも食べてみたくになります。食欲の秋で疲労回復！私たちスタッフも美味しい食べ物で心身のリフレッシュを図りながら頑張りたいと思ひます。

広報委員